【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和４年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	武雄市立武雄小学校
1 前年度評価結果の概要	・学力向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一人一台端末を活用した授業実践と学力の向上につながる授業改善を行う。家庭との連携を通して、家庭学習の更なる充実を目指す。 ・道徳教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「豊かな心を育てる教育の推進」を目指して、道徳の授業を含め、教育活動全般を通して育成する教育課程の編成が必要である。 ・特別支援教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・すべての教職員が研修を深め、児童の実態に即した対応力を身に付ける。引き続き、関係機関との連携を図る。 ・業務改善・働き方改革・・・・・・・・・・・・・・・・・それぞれの教職員が働き方に対する意識改革を行い、タイムマネジメントの能力の育成向上を目指す。
2 学校教育目標	学ぶことが楽しいことだと実感し、次の学びに意欲的に取り組む児童の育成
3 本年度の重点目標	【志】 やり抜く力の育成 目標に向かって粘り強く取り組み、意欲を次の学びにつなげる子ども 【知】 確かな学力の向上 やる気いっぱい、進んで学ぶ子ども 【徳】 豊かな心の育成 笑顔いっぱい、やさしい子ども 【体】 たくましい体の育成 元気いっぱい、たくましい子ども

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
（１）共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師８０％以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修により取組の促進を図る。	A	・マイプランの成果指標に向けて計画的に実践できたとする教師は「とてもそうだ」「だいたいそうだ」を合わせると９４．１％であった。	A	・マイプランの成果指標に向けて「とてもできた」「大体そうだ」の合計が100%で目標は達成した。ただし、その中の89%が「大体そうだ」なので、今後更に取組の促進を図る必要がある。	A	・マイプランの成果指標に向けた計画的な実践がなされている。	松永 （学力向上対策コーディネーター）
	○西部型授業の問題解決型学習を意識した授業実践	○「自分の考えを相手に分かるように書くことができた」児童の割合 ７０％以上	・自分の考えを図や言葉を使ってかく活動を普段の授業の中で意図的に取り入れる。	A	・学力向上にかかわる研修会を開き、つまずきの多かった問題より、課題を分析・把握し、日々の実践化・継続化を図ってきた。課題である「書く活動」においても、児童アンケートでは、自分の考えを書くことが「とてもできた」「できた」を合わせると９３％であった。	A	・県の学習状況調査では、5年算数、6年国語・社会・理科ともに県と同程度であった。5年国語は県比+0.04、6年社会+0.08と上回った。昨年度の同一学年と比較しても伸びてきており、記述式問題においても無解答率も県と同程度であった。 ・2月の児童アンケートでは「自分の考えを図や表、式、言葉を使ってかくことができた」児童の割合は85.3%と成果指標である70%を大きく上回った。 ・学力向上研修会を開き、県の学習状況調査、全国標準学力調査（CRT）、単元別テスト結果を分析し、落ち込んでいる教科、領域、単元等の課題を把握した。そして、現学年で年度内に底上げできるところは、日々の授業や学力向上タイムで課題の解決を図っている。また、次年度へ向けて継続して取り組む必要があるところは「学年引き継ぎ書」に記入し次年度担任への申し送りをする。	A	・どの教科においても「めあて」から「まとめ」「ふり返り」に至る一連の学習過程を大事にし、自分の考えやその根拠を遣える力の育成に向けた授業づくりをしている。	
	○ICTを活用した教育の推進 ・１人１台端末を活用した授業改善	○教師のＩＣＴ機器の利用率９０％以上	・スキルアップ研修や、低中高特での情報共有の時間を設け、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現に向けた１人１台端末活用事例を増やし、実践に生かす。	A	・アンケートでは「１人１台端末を活用した授業を実践できたと答えた教師は７７％だったが、様々な教科において児童の特性や発達段階に対応した授業実践が多くなされた。１１月の研究授業に向けて、多くの教員がより端末の活用がなされていくと期待している。	A	・１１月の研究発表会では、全クラスでタブレットを活用した授業実践を行うことができた。「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現を目指す授業デザインも提案することができた。教師は発表会後もタブレットを活用した授業実践を行っていることから、十分達成できたといえる。	A	・研究発表会では、児童もよく頑張っており、落ち着いた学習態度だった。授業に深まりも見られた。 ・昨年度から県教委の研究指定を受け、職員一丸となり、先導的な実践で成果を遂げている。	徳永（研究主任） 大古場（ICT教員担当）
	○基本的学習習慣の取り組み ・授業中の学習習慣の定着 ・家庭学習のさらなる充実	○基本的な学習習慣の定着と家庭学習ができた児童の割合を９０％以上	・各学級で宿題の提出の有無をはっきりさせ、未提出の児童はその日のうちに確実にやり終えるように指導を徹底する。 ・宿題の取り組みを徹底できるように、家庭への連絡を行い、協力を促す。	A	・家庭学習については、ほぼ全員が取り組んでいる。決まった児童に未提出傾向がみられるが、その日のうちに取り組ませている。「たけおっ子ノート名人コーナー」を設け、友達のノートや上級生のノートを見ることで、自分のノートの書き方の参考になるように掲示している。	A	・どの学年においても９０％以上家庭学習に取り組むことができた。取り組んでいない児童については、学校でその日のうちに提出させた。児童によっては内容が難しく取り組めない場合もあるため、児童の特性に応じた学習量や取り組ませ方を考えていく必要がある。	A	・家庭学習については、ほぼ全員が取り組んでいるので、これからも工夫した家庭学習の取り組みを行ってほしい。	学習部 家庭学習（徳永）
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身につける教育活動	◎学校行事や日頃の生活、道徳の授業を通して、子どもの豊かな心の育成に結びつくような学習や活動の工夫に努めている教師９０％以上	・内容項目を確認して確実な授業の実施を行う。 ・教室の掲示コーナーに道徳の学習や学校行事等の足跡を残し、児童の心を育む環境づくりを定期的に行う。	B	・「子どもの豊かな心の教育に結びつくような学習や活動の工夫に努めた」とする教師は、８２．４％であった。	A	・2月の振り返りアンケートでは、「子どもの豊かな心の教育に結びつくような学習や活動の工夫に努めた」とする教師は97%であり、道徳や学校生活全般において意識した取り組みを行うことができた。	A	・子どもの豊かな心を育てるために、教員が学習や活動の工夫に努められている。	桑原（教務主任） 今川（道徳教育推進教員）

	●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○ 学校で安心して楽しく過ごせているという児童の意識を９０％以上	・月に１回の「気になる子」報告会と、生活アンケートでいじめにつながる可能性がある事案の対応にあたる。 ・いじめ対策委員会において、具体的対応策を協議し職員全体で指導対応にあたる。 ・全教科を通して人権・同和教育を推進する。	A	・学校で安心して楽しく過ごせているかというアンケートに平均８７．８％の児童が肯定的に答えている。 ・いじめに関する事案では、迅速に対策会議を開き、早期にかつ全職員で共通認識を持つことができた。	A	・学校で安心して楽しく過ごせているかというアンケートに平均９１．９％の児童が肯定的に答えており、前回のアンケートより４．１ポイント上回った。 ・いじめに関する事案では、迅速に対策会議を開き、早期にかつ全職員で共通認識を持つことができた。	A	・いじめの早期発見・早期対応を今後ともよろしくお願いしたい。 ・児童や保護者のことを第一に考え、迅速な対応をされていて安心した。 ・どの学校でも起こり得るいじめの問題に適切な対応がなされている。	松尾（生徒指導主任） 大古場・秀島 （人権・同和教育担当）
		○目標に向かって粘り強く取り組み、意欲を次の学びにつなげる子ども ・学級経営の充実	◎「目標に向かって粘り強く取り組み、次の学びにつなげることができた」について肯定的な回答をした児童７０％以上 ◎目標に向かって粘り強く取り組み、次の学びにつなげるような学習や活動の工夫に努めている教師７０％以上	・「キャリア・パスポート」を活用し、学校生活の中でめあてを持ったり振り返りを行ったりして自己評価を行い、主体的に学びに向かう力ややり抜く力を育成する。	A	・「キャリアパスポート」をはじめ、各学級ごとにめあてを持ったり振り返りを行ったりする自己評価の機会をとっていることで、目標に向かって取り組んでいる児童が多い。 ・児童アンケートでは、「目標に向かって粘り強く取り組み、次の学びにつなげることができた」と回答した児童は、８５．９％であった。	A	・2月の振り返りアンケートでは、「目標に向かって粘り強く取り組み、次の学びにつなげるような学習や活動の工夫に努めている」教師は100％であり、児童アンケート結果と共に目標を達成することができた。	A	・目標に向かって粘り強く取り組み、次の学びにつなげるような学習や活動の工夫に努めている教員が多い。	教務主任 各学級担任
	●健康・体つくり	①「望ましい生活習慣の形成」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①「早寝、早起き、朝ご飯」等の基本的な生活習慣の習慣化ができている児童を85％以上 ②「健康に食事は大切である」と考える児童１００％	①睡眠や朝食喫食、テレビ視聴やゲームの時間設定の啓発を行う。また、学校だよりや学年通信等で基本的な生活習慣の習慣化について定期的に啓発する。 ②各学年の指導目標を実現できるよう意識して指導する。	A	・１学期振り返りアンケートにおいて、「早寝、早起き、朝ご飯」ができていると回答した児童は、８５．１％であった。 ・１学期振り返りアンケートにおいて、「健康に食事は大切である」と考えている児童は、９５．５％であった。	A	・2月の振り返りアンケートにおいて、「早寝、早起き、朝ご飯」ができていると回答した児童は、８５％であった。 ・２月の振り返りアンケートにおいて、「健康に食事は大切である」と考えている児童は、９８％であった。	A	・食事は大切だとほとんどの児童が分かっているので、朝ご飯をしっかり食べるように指導してほしい。	保体部 小川（食育担当） 原（養護教諭）
		○体育的行事の充実 ・体育、健康、保健に係る教育の推進	○体力向上に関する子ども一人一人の学びの充実を大切にしようとする教師８５％以上	・日々の体育の授業を中心にして、スポーツフェスタなど体を動かすことの心地よさに触れさせる機会を設定し、体力向上の推進を図る。 ・計画的、定期的に体力向上に関する取り組みを実施し、学級指導に活用する。	A	・１学期振り返りアンケートにおいて、「体力向上に関する子ども一人ひとりの学びの充実を大切にしようとする教員は、８８．３％と、目標をクリアすることができた。	A	・２学期振り返りアンケートにおいて、「体力向上に関する子ども一人ひとりの学びの充実を大切にしようとする教員は、８５％と、目標をクリアすることができた。	A	・コロナ禍ではあるが、体育的行事においても創造工夫した取組がなされていると感じる。	保体部 中村 （体力向上担当）
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議資料等のを早めに配布し、会議は検討事項のみ「提案をして会議の短縮を図る。	A	・資料は前日に配布しているが、協議事項が多い時には、終了時刻を伝えて会議を始めている。	A	・時間内に会議を終えることができるように全職員が意識して職員会議や打ち合わせ会を行い、会議の時間が短くなった。	A	・会議の短縮が図られている。	教頭・事務長
		○教職員の働き方に対する意識改革を行い タイムマネジメント能力の育成を図る。	○タイムレコーダーを活用し教職員の勤怠管理を行い、会議や業務の効率化を進めながら前年度同月比５％減にする。	・毎月「業務チェックシート」で、勤務時間の改善を図る。 ・働き方対策委員会を開催し、職員全体で改善すべき点を確認し、実践する。 ・毎週金曜日の定期退勤を呼びかける。	B	・働き方改革アンケート結果から、改善できるところから始めるように共通理解の時間をとった。 ・時間外超過勤務時間は、前年度の同時期よりも平均１．５時間減だった。	B	・時間外勤務時間は、どの月も前年度よりも減っていたが、毎週金曜日の定時退勤日については、呼びかけてはいたが、目標の退勤時間に退勤できなかった。	B	・先生方の業務は大変だと思うが、少しでも勤務時間が減少するよう努力してほしい。 ・急に成果を出すことは難しい課題と思えるが、引き続き推進していってほしい。	教頭・事務長

（２）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標Ⅰ(数値目標)		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実 ・保護者や専門機関との連携	○児童との関係を大切にした相談活動を充実させる。 ・会議の情報交換を行い、職員全体での共通理解をする。 ・情報交換により、児童理解ができたという教師を８０％にする。	・計画的、定期的に会議（支援会議、スマイル会議、スクールカウンセラーのカウンセリングの報告、巡回相談等）を実施し、児童の実態把握、関係機関との連携を協議し、支援体制を構築する。 ・全職員に対して児童理解に関する意識調査を行う。	A	・計画的、定期的に会議を行い、児童の実態把握、関係機関との連携、支援体制の構築につながっている。また、関係者に会議内容の周知徹底をはかっている。 ・職員の意識調査により、「とてもそうだ」「だいたいそうだ」を合わせると、児童理解ができたという教師が１００％になった。	A	・計画的、定期的に会議を行い、児童の実態把握、支援体制の構築を図ることができた。 ・職員の意識調査「児童理解ができた」では、「とてもそうだ」「だいたいそうだ」を合わせると１００％だったが、内訳として「だいたいそうだ」が約５０％だった。情報共有の仕方や会議の持ち方などを改善し、児童理解を促進する必要がある。	A	・会議が計画的・定期的に行われており、関係機関との連携も図られている。	特別支援部 小林・多久島三 （教育相談担当）
◎防災教育の充実	○防災教育の充実	①子どもの生活アンケートの防災関連項目について、「わかる」「できる」「知っている」が８０％以上 ②水難危険個所等の防災上重要な箇所の職員による把握が１００％ ③大雨や台風等における児童の下校体制の充実	・月に1回の緊急放送訓練の実施(児童向け) ・全校朝会での防災に関する説話(児童向け) ・佐賀豪雨に関する写真などの掲示 ・危険個所の把握に関する研修・実地確認（職員向け） ・大雨や台風等における児童の下校体制のマニュアル化	A	・月に１回の緊急放送訓練を実施し、放送にすぐに反応するようになった。 ・全校朝会で、防災(水害) に関する話をした。話した内容を掲示し高めた意識の維持にも努めている。 ・夏休みに校区内を全職員で担当ごとに回り、危険個所の把握を行った。 ・大雨・台風時の下校体制については実践を通して確かめた。今年度内にマニュアルはまとめる予定。	A	・月に1回の緊急放送訓練を続けてきて、放送に耳を傾ける姿勢を維持することができた。 ・不審者避難訓練・地震火災時避難訓練を実施して、避難経路、避難方法等の共通理解、意識向上を図ることができた。 ・危険個所の把握については、夏休みの全職員による巡回で100％を達成した。 ・災害時の下校体制については全職員で確認できているが、マニュアルにまとめるまでには至っていない。	A	・防災意識を高める訓練や勉強を実施されているのは、いいことだ。 ・日頃からの訓練が、いざというときに役立つので、防災教育の充実は、よろしくお願いしたい。 ・可能であれば保護者を含めた防災教育の場があればよい。育友会主体で行ってもよいのかと思う。	生活部 井手（防災教育担当）
○花まるタイムの定着	○民間の良さを取り込んだ「花まるタイム」の推進 ○地域とのつながりを感じ、郷土を愛する心の育成	○花まるタイムの取り組みについて肯定的な回答をする児童と地域の方々８０％以上	・花まるタイムの年間計画に基づいた計画的な実施。 ・地域の方と児童が交流している姿をHPや掲示板を使って取り上げ、地域の方の花まるタイムへの意欲を上げる。 ・地域の方をGT活用（地域との連携）	B	・「花まるタイムは楽しい」と回答した児童は、７３．７％である。下学年では楽しく集中して取り組む児童が多いものの、上学年では肯定的な回答が減少傾向にある。 ・地域の方の支援については、まだ現時点では実施していない。	B	・「花まるタイム」では地域の方の支援については、実施できなかった。 ・各教科の学習や学校行事、その他の様々な活動で、地域の方の指導・支援をいただくことができた。	B	・地域の者は、早く花まる支援をしたいと思っている。 ・コミュニティスクールとしての花まる支援ができなかったのは残念だった。	教頭（地域連携） 桑原・大古場 （花まる担当）

●･･･県共通 ○･･･学校独自 ◎･･･志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学力向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一人一台端末を活用した授業実践と学力の向上につながる授業改善を行う。家庭との連携を通して、家庭学習の定着と更なる充実を目指す。 ・道徳教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・「豊かな心を育てる教育の推進」を目指して、道徳の授業を含め、教育活動全般を通して育成する教育課程の編成や体験活動を充実させる。 ・特別支援教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・すべての教職員が研修を深め、児童の実態に即した対応力を身に付ける。引き続き、児童理解を深めたり、保護者の対応をしたり、関係機関との連携を図りながら、支援を行っていく。 ・業務改善・働き方改革・・・・・・・・・・・・・・それぞれの教職員が働き方に対する意識改革を行い、タイムマネジメントの能力の育成向上を目指す。定時退勤日の推奨をする。